

## 第5章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査及び予測の手法

### 5-1 環境影響評価の項目

#### (1) 環境に影響を及ぼす行為・要因の抽出

本事業の実施に伴い、事業予定地及びその周辺の環境に影響を及ぼすおそれがある行為・要因（以下、「影響要因」という。）について、事業特性を踏まえ抽出した結果は、表5-1-1に示すとおりである。

表 5-1-1 影響要因の抽出

	影響要因の区分	影響を及ぼす内容
	細 区 分	
工 事 中	現況施設の解体及び新施設の建設	粉じんの発生、工事排水の排出、廃棄物等の発生、温室効果ガス等の排出
	掘削等の土工	工事排水の排出、汚染土壌の飛散等、廃棄物等の発生
	建設機械の稼働	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出
	工事関係車両の走行	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出、交通安全への影響
存在・供用時	新施設の存在	景観の変化、緑地等の出現
	新施設の供用	事業排水の排出、騒音の発生、廃棄物等の発生、温室効果ガスの排出
	新施設関連車両の走行	大気汚染物質の排出、騒音の発生、温室効果ガスの排出、交通安全への影響

#### (2) 影響を受ける環境要素の抽出

事業特性を踏まえて抽出した影響要因（前掲表 5-1-1）に基づき、事業予定地及びその周辺の地域特性を勘案し、環境影響評価の対象とする環境要素を抽出して、環境影響評価の項目を選定した。

環境影響評価の項目として抽出した環境要素と影響要因の関連は、表 5-1-2 に示すとおりである。また、各環境要素について、環境影響評価の項目として選定した理由は表 5-1-3 に、選定しなかった理由は表 5-1-4 に示すとおりである。

なお、環境影響評価の対象とする環境要素は、大気質、騒音、振動、水質・底質、土壌、景観、廃棄物等、温室効果ガス等、安全性及び緑地等の計 10 項目である。

表 5-1-2 環境影響評価の項目として抽出した環境要素と影響要因の関連

環境要素の区分	影響要因の区分	工 事 中				存在・供用時		
	細区分	及現 び況 新施 設の 建設 体	掘 削 等 の 土 工	建 設 機 械 の 稼 働	工 事 関 係 車 両 の 走 行	新 施 設 の 存 在	新 施 設 の 供 用	新 施 設 関 連 車 両 の 走 行
A 大気質	二酸化窒素	-	-	●	●	-	-	●
	浮遊粒子状物質	-	-	●	●	-	-	●
	粉じん	●	-	-	-	-	-	-
B 騒音	建設作業騒音	-	-	●	-	-	-	-
	道路交通騒音	-	-	-	●	-	-	●
	施設騒音	-	-	-	-	-	●	-
C 振動	建設作業振動	-	-	●	-	-	-	-
	道路交通振動	-	-	-	●	-	-	-
D 低周波音	-	-	-	-	-	-	-	
E 悪臭	-	-	-	-	-	-	-	
F 水質・底質	水素イオン濃度	●	-	-	-	-	-	-
	浮遊物質量	-	●	-	-	-	-	-
	砒素	-	●	-	-	-	-	-
	ふっ素	-	●	-	-	-	-	-
	化学的酸素要求量	-	-	-	-	-	●	-
	全窒素	-	-	-	-	-	●	-
全磷	-	-	-	-	-	●	-	
G 地下水	-	-	-	-	-	-	-	
H 地形・地質	-	-	-	-	-	-	-	
I 地盤	-	-	-	-	-	-	-	
J 土壌	砒素	-	●	-	-	-	-	-
	ふっ素	-	●	-	-	-	-	-
K 植物	-	-	-	-	-	-	-	
L 動物	-	-	-	-	-	-	-	
M 生態系	-	-	-	-	-	-	-	
N 景観	地域景観	-	-	-	-	●	-	-
O 人と自然との触れ合いの活動の場	-	-	-	-	-	-	-	
P 文化財	-	-	-	-	-	-	-	
Q 廃棄物等	廃棄物等	●	●	-	-	-	●	-
R 温室効果ガス等	温室効果ガス	●	-	●	●	-	●	●
	オゾン層破壊物質	●	-	-	-	-	-	-
S 風害	-	-	-	-	-	-	-	
T 日照阻害	-	-	-	-	-	-	-	
U 電波障害	-	-	-	-	-	-	-	
V 地域分断	-	-	-	-	-	-	-	
W 安全性	交通安全	-	-	-	●	-	-	●
X 緑地等	緑地の状況	-	-	-	-	●	-	-

表 5-1-3 環境影響評価の項目として選定した理由

環境要素	時 期	選 定 理 由
A 大気質	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現況施設の解体に伴い発生する粉じんによる大気質への影響が考えられる。</li> <li>・ 建設機械の稼働に伴い排出される二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による大気質への影響が考えられる。</li> <li>・ 工事関係車両の走行に伴い排出される二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による大気質への影響が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設関連車両の走行に伴い排出される二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による大気質への影響が考えられる。</li> </ul>
B 騒 音	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼働に伴い発生する騒音による影響が考えられる。</li> <li>・ 工事関係車両の走行に伴い発生する騒音による影響が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設関連車両の走行に伴い発生する騒音による影響が考えられる。</li> <li>・ 新施設の供用に伴い、アトラクション施設等から発生する騒音による影響が考えられる。</li> </ul>
C 振 動	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建設機械の稼働に伴い発生する振動による影響が考えられる。</li> <li>・ 工事関係車両の走行に伴い発生する振動による影響が考えられる。</li> </ul>
F 水質・底質	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事に伴い発生する濁水による公共用水域への影響が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の供用に伴い発生する汚水による公共用水域への影響が考えられる。</li> </ul>
J 土 壤	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掘削等の土工に伴い、汚染土壌の飛散等の影響が考えられる。</li> </ul>
N 景 観	存在時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の存在による地域景観の変化が考えられる。</li> </ul>
Q 廃棄物等	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現況施設の解体、掘削等の土工及び新施設の建設に伴い発生する建設系廃棄物による影響が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の供用に伴い発生する事業系廃棄物による影響が考えられる。</li> </ul>
R 温室効果ガス等	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の建設、建設機械の稼働及び工事関係車両の走行に伴い排出される温室効果ガスによる影響が考えられる。</li> <li>・ 現況施設の解体によるオゾン層破壊物質の発生が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の供用及び新施設関連車両の走行に伴い排出される温室効果ガスによる影響が考えられる。</li> </ul>
W 安全性	工事中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事関係車両の走行に伴う交通安全への影響が考えられる。</li> </ul>
	供用時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設関連車両の走行に伴う交通安全への影響が考えられる。</li> </ul>
X 緑地等	存在時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新施設の存在（緑化）による緑地等の出現が考えられる。</li> </ul>

表 5-1-4 環境影響評価の項目として選定しなかった理由

環境要素	時 期	非 選 定 理 由
A 大気質	供用時	・集中熱源施設を設置しない。
C 振 動	供用時	・新施設関連車両は主に小型車であることから、この走行に伴う振動による影響は小さいと考えられる。 ・著しく振動を発生する施設を設置しない。
D 低周波音	工事中	・著しく低周波音を発生する建設機械は使用しない。
	供用時	・著しく低周波音を発生する施設を設置しない。
E 悪 臭	工事中	・悪臭を発生する建設機械は使用しない。
	供用時	・厨芥ごみは分別収集し、適切な管理を行い悪臭の発生を防ぐ計画であることから、影響は小さいと考えられる。
G 地下水	工事中	・工事中の濁水は、沈砂槽及び必要に応じた水処理装置を経て既設の雨水排水管へ放流する計画であることから、影響は小さいと考えられる。
	供用時	・供用時の汚水は、事業予定地内に設置した浄化槽を経て既設の雨水排水管へ放流する計画であることから、影響は小さいと考えられる。
H 地形・地質	工事中 存在時	・事業予定地内に重要な地形・地質は存在しない。 ・大規模な掘削等の土工による土地の改変は行わない。
I 地 盤	工事中	・大規模な掘削等の土工は行わないことから、地下水位及び周辺地盤の変位は小さいと考えられる。
	存在時	・大規模な施設の設置は行わないことから、周辺地盤の変位は小さいと考えられる。
J 土 壤	供用時	・特定有害物質は使用せず、また、ダイオキシン類を排出する施設は設置しない。
K 植 物	工事中 存在・供用時	・事業予定地及びその周辺は埋立地であり、貴重種として保存すべき群落及び種等は存在しない。 ・事業予定地及びその周辺は、人間活動の影響を強く受けた地域であり、生息・生育する動植物は限られることから、本事業による影響は小さいと考えられる。
L 動 物		
M 生態系		
O 人と自然との触れ合いの活動の場	工事中 存在・供用時	・事業予定地及びその周辺には、人と自然との触れ合いの活動の場は存在しない。
P 文化財	工事中 存在時	・事業予定地内には指定文化財は存在しておらず、周辺地域については、本事業の実施による指定文化財の現状変更等は計画していない。 ・工事中に埋蔵文化財が確認された場合には、関係機関との協議により適切な措置をとる。
S 風 害	存在時	・建築物は中低層であり、大規模な施設の設置は行わないことから、風害による影響は小さいと考えられる。
T 日照阻害	存在時	・建築物は中低層であり、大規模な施設の設置は行わないことから、日影による影響は小さいと考えられる。
U 電波障害	存在時	・建築物は中低層であり、大規模な施設の設置は行わないことから、テレビジョン放送電波障害等の影響は小さいと考えられる。
V 地域分断	工事中 存在時	・本事業は、特定の敷地内における開発であることから、周辺地域の再編成等は行わない。

## 5-2 調査予定期間

「方法書に対する市長の意見（方法意見書）」の送付日から2ヶ月

## 5-3 調査及び予測の手法

### (1) 大気質

#### [調査]

既存資料 調査	大気質	調査目的	事業予定地周辺の現況大気質濃度の把握 予測・評価のためのバックグラウンド濃度の把握
		調査事項	二酸化窒素及び浮遊粒子状物質濃度
		調査方法	大気汚染常時監視測定局データの整理
	気象	調査目的	事業予定地周辺の現況気象概況の把握 大気汚染物質の拡散計算に用いる気象条件の把握
		調査事項	風向、風速、日射量及び雲量
		調査方法	大気汚染常時監視測定局データの整理 名古屋地方気象台データの整理
現地調査	交通量	調査目的	事業予定地周辺における交通量の現況把握
		調査事項	自動車交通量（時刻別、車種別、方向別自動車交通量）
		調査方法	数取器を使用し、連続して交通量を求める。車種分類は、乗用車、小型貨物車、中型車及び大型車とする。
		調査場所	工事関係車両及び新施設関連車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の5地点で行う。（図5-3-1参照）
		調査時期	1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日（24時間）で行う。

[予 測]

工事中	現況施設の解体	予測事項	解体工事による粉じん
		予測項目	粉じんの発生及び飛散
		予測条件	気象条件
		予測方法	ビューフォート風力階級区分による風速の出現頻度に基づく予測
		予測場所	事業予定地周辺
		予測時期	解体工事中
	建設機械の稼働	予測事項	建設機械の稼働による大気汚染物質濃度
		予測項目	二酸化窒素濃度（年平均値及び日平均値の年間98%値） 浮遊粒子状物質濃度（年平均値及び日平均値の2%除外値）
		予測条件	気象条件 建設機械の種類別大気汚染物質排出量 建設機械の種類別稼働台数 建設機械の配置 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度
		予測方法	大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	事業予定地周辺
		予測時期	1期区域及び2期区域において、建設機械の稼働による大気汚染物質排出量がそれぞれ最大となる時期
	工事関係車両の走行	予測事項	工事関係車両の走行による大気汚染物質濃度
		予測項目	二酸化窒素濃度（年平均値及び日平均値の年間98%値） 浮遊粒子状物質濃度（年平均値及び日平均値の2%除外値）
		予測条件	気象条件 自動車走行に伴う大気汚染物質に係る排出係数 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度 排出源条件（走行ルート別工事関係車両台数、走行速度、道路構造等） 事業予定地周辺の開発計画
		予測方法	大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の地点
		予測時期	1期区域及び2期区域において、工事関係車両による大気汚染物質排出量がそれぞれ最大となる時期

供用時	新施設関連車両の走行	予測事項	新施設関連車両の走行による大気汚染物質濃度
		予測項目	二酸化窒素濃度（年平均値及び日平均値の年間98%値） 浮遊粒子状物質濃度（年平均値及び日平均値の2%除外値）
		予測条件	気象条件 自動車走行に伴う大気汚染物質に係る排出係数 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度 排出源条件（走行ルート別新施設関連車両台数、走行速度、道路構造等） 事業予定地周辺の開発計画
		予測方法	大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	新施設関連車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の地点
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時

## (2) 騒音

### [調査]

既存資料調査	調査目的	事業予定地周辺の騒音の概況把握
	調査事項	環境騒音、道路交通騒音
現地調査	調査方法	「名古屋市の騒音 環境騒音編（平成21年度）」（名古屋市，平成22年）の整理 「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成19年度・平成20年度）」（名古屋市，平成21年）の整理
	調査目的	事業予定地周辺における騒音の現況把握
	調査事項	環境騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）） 道路交通騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）） 自動車交通量（時刻別、車種別、方向別自動車交通量）
	調査方法	環境騒音、道路交通騒音は、「環境騒音の表示・測定方法（JIS Z 8731）」に定める方法 自動車交通量は、数取器を使用し、連続して交通量を求める。車種分類は、乗用車、小型貨物車、中型車及び大型車とする。
	調査場所	環境騒音は、事業予定地周辺の1地点で行う。（図5-3-1参照） 道路交通騒音及び自動車交通量は、工事関係車両及び新施設関連車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の5地点で行う。（図5-3-1参照）
調査時期	環境騒音は、1年を通して平均的な日と考えられる平日1日のうち、昼間（6～22時）の16時間で行う。 道路交通騒音及び自動車交通量は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日のうち、昼間（6～22時）の16時間で行う。	

[予 測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	建設機械の稼働による騒音レベル
		予測項目	建設工事騒音（時間率騒音レベル（ $L_{A5}$ ））
		予測条件	建設機械の種類別周波数別パワーレベル 建設機械の種類別稼働台数 建設機械の配置 地表面状況 騒音対策の方法
		予測方法	「日本音響学会 建設工事騒音予測“ASJ CN-Model 2007”」に基づく予測（機械別予測）
		予測場所	事業予定地周辺
		予測時期	1期区域及び2期区域における解体工事並びに建設工事において、騒音の影響がそれぞれ最も大きくなると予想される時期
		工事関係車両の走行	予測事項
	予測項目		道路交通騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ））
	予測条件		工事関係車両の走行ルート 音源条件（走行ルート別工事関係車両台数、走行速度、道路構造等） 事業予定地周辺の開発計画
	予測方法		「日本音響学会 道路騒音予測法“ASJ RTN-Model 2008”」に基づく予測
	予測場所		工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の地点
	供用時	新施設の供用	予測事項
予測項目			施設騒音（時間率騒音レベル（ $L_{A5}$ ））
予測条件			アトラクション施設等の種類別パワーレベル アトラクション施設等の種類別稼働台数 アトラクション施設等の配置 地表面状況 騒音対策の方法
予測方法			距離減衰式に基づく予測
予測場所			事業予定地周辺
予測時期			1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時
新施設関連車両の走行			予測事項
		予測項目	道路交通騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ））
		予測条件	新施設関連車両の走行ルート 音源条件（走行ルート別新施設関連車両台数、走行速度、道路構造等） 事業予定地周辺の開発計画
		予測方法	「日本音響学会 道路騒音予測法“ASJ RTN-Model 2008”」に基づく予測
		予測場所	新施設関連車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の地点
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時



### (3) 振 動

#### [調 査]

既存資料 調査	調査目的	事業予定地周辺の振動の概況把握
	調査事項	道路交通振動
	調査方法	「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成19年度・平成20年度）」（名古屋市，平成21年）の整理
現地調査	調査目的	事業予定地周辺の振動の現況把握
	調査事項	環境振動（時間率振動レベル（ $L_{10}$ ）） 道路交通振動（時間率振動レベル（ $L_{10}$ ）） 地盤卓越振動数
	調査方法	環境振動については「振動レベル測定方法」（JIS Z 8735）」、道路交通振動については「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）に定める方法 地盤卓越振動数は、1/3オクターブバンド実時間分析器を用いた周波数分析による方法
	調査場所	環境振動は、事業予定地周辺の1地点で行う。（図5-3-1参照） 道路交通振動及び地盤卓越振動数は、工事関係車両及び新施設関連車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の5地点で行う。（図5-3-1参照）
	調査時期	環境振動は、1年を通して平均的な日と考えられる平日1日のうち、6～22時の16時間で行う。 道路交通振動は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日のうち、6～22時の16時間で行う。

[予 測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	建設機械の稼働による振動レベル
		予測項目	建設工事振動（時間率振動レベル（L <sub>10</sub> ））
		予測条件	建設機械の種類別基準点振動レベル 建設機械の種類別稼働台数 建設機械の配置 地盤特性
		予測方法	振動伝搬理論式に基づく予測
		予測場所	事業予定地周辺
		予測時期	1期区域及び2期区域における解体工事並びに建設工事において、振動の影響がそれぞれ最も大きくなると予想される時期
		工事関係車両の走行	予測事項
	予測項目		道路交通振動（時間率振動レベル（L <sub>10</sub> ））
	予測条件		工事関係車両の走行ルート 振動発生源条件（走行ルート別工事関係車両台数、走行速度、道路構造等） 地盤特性 事業予定地周辺の開発計画
	予測方法		旧建設省土木研究所の提案式等に基づく予測
	予測場所		工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業予定地周辺道路の地点
	予測時期		1期区域及び2期区域において、工事関係車両の走行による振動の影響がそれぞれ最大となる時期

(4) 水質・底質

[調 査]

既存資料調査	調査目的	事業予定地周辺の公共用水域の水質の現況把握
	調査事項	事業予定地周辺の公共用水域の水質の現況
	調査方法	「平成22年度 公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」（名古屋市，平成23年）の整理 「平成22年度 公共用水域及び地下水の水質調査結果」（愛知県，平成23年）の整理

[予 測]

工事中	現況施設の解体及び新施設の建設・掘削等の土工	予測事項	工事中に発生する水質汚濁物質の排出量及び濃度
		予測項目	水素イオン濃度、浮遊物質、砒素及びふっ素
		予測条件	計画排水量、排出負荷量等
		予測方法	工事計画、負荷量からの推計
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける工事期間中
供用時	新施設の供用	予測事項	新施設の供用に伴い発生する水質汚濁物質の排出量及び濃度
		予測項目	化学的酸素要求量、全窒素及び全磷
		予測条件	計画排水量、排出負荷量等
		予測方法	事業計画、負荷量からの推計もしくは数理モデル
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時

(5) 土 壌

[調 査]

既存資料調査	調査目的	事業予定地内の土壌汚染の概況把握
	調査事項	事業予定地内の土壌汚染の状況
	調査方法	名古屋市が行った国際展示場における土壌調査資料の整理 (第4章 4-2 (1) ③「土壌汚染」 (p.49) 参照)

[予 測]

工事中	掘削等の土工	予測事項	掘削等の土工による土壌汚染の影響
		予測項目	砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物
		予測条件	掘削位置及び深度、掘削方法、処理方法
		予測方法	工事計画、類似事例等に基づく予測
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける工事期間中

(6) 景 観

[調 査]

現地調査	調査目的	事業予定地周辺の景観の現況把握
	調査事項	地域景観の特性 主要眺望点からの景観
	調査方法	現地踏査及び主要眺望点からの写真撮影
	調査場所	事業予定地及びその周辺 写真撮影は、不特定多数の人が利用する主な場所として、2地点で行う。（図5-3-2参照）

[予 測]

存在時	新 施 設 の 存 在	予測事項	新施設による景観の変化
		予測項目	主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観
		予測条件	地域景観の現況 新施設の形状 事業予定地周辺の開発計画 等
		予測方法	フォトモンタージュによる景観の予測
		予測場所	現地調査地点の2地点
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の存在時

(7) 廃棄物等

[予 測]

工事中	現 況 施 設 の 解 体 及 び 新 施 設 の 建 設 ・ 掘 削 等 の 土 工	予測事項	工事中に発生する廃棄物等の種類及び発生量
		予測項目	建設系廃棄物（建設廃材、掘削残土等）の種類及び発生量
		予測条件	工事計画（掘削体積、新施設の床面積 等） 現況施設（駐車場、建築物等）の延べ面積及び構造 廃棄物等の発生原単位
		予測方法	発生原単位及び工事計画から発生量並びに再資源化量を推計
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける工事期間中
		供用時	新 施 設 の 供 用
予測項目	事業系廃棄物の種類及び発生量		
予測条件	事業計画 新施設の用途別床面積 廃棄物等の発生原単位		
予測方法	発生原単位及び事業計画から発生量並びに再資源化量を推計		
予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時		

## (8) 温室効果ガス等

## [調査]

現地調査	調査目的	現況施設におけるオゾン層破壊物質量の把握
	調査事項	オゾン層破壊物質の使用状況及び量
	調査方法	聞き取り調査による確認
	調査場所	事業予定地内

## [予測]

工事中	現況施設の解体	予測事項	オゾン層破壊物質の処理	
		予測項目	現況施設の解体に伴い発生するオゾン層破壊物質の処理方法	
		予測条件	現況施設における使用状況、工事計画等	
		予測方法	工事計画、類似事例等に基づく予測	
		予測時期	解体工事中	
	現況施設の解体及び新施設の建設・建設機械の稼働・工事関係車両の走行	予測事項	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量	
		予測項目	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量（二酸化炭素換算）	
		予測条件	・工事計画 [建設機械の稼働] ・建設機械の種類別稼働台数 ・建設機械の種類別燃料消費量または電力消費量 ・燃料原単位または電力原単位 [建設資材の使用] ・建設資材の使用量 ・資材の種類別排出量原単位 [建設資材の運搬] ・工事関係車両台数 ・車種別燃料種別走行量 ・車種別燃料消費原単位 [廃棄物の発生] ・建設系廃棄物の種類別・処分方法別発生量 ・建設系廃棄物の種類別・処分方法別排出係数	
			予測方法	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計
			予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける工事期間中

供用時	新施設の 供用・新 施設関連 車両の走 行	予測事項	新施設の供用等に伴い発生する温室効果ガス発生量
		予測項目	新施設の供用等に伴い発生する温室効果ガス発生量（二酸化炭素換算）
		予測条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画</li> <li>[施設の存在・供用]</li> <li>・エネルギー種類別年間消費量</li> <li>・エネルギー種類別原単位</li> <li>[自動車交通の集中・発生]</li> <li>・新施設関連車両台数</li> <li>・車種別燃料種別走行量</li> <li>・車種別燃料消費原単位</li> <li>[廃棄物の発生]</li> <li>・事業系廃棄物の種類別・処分方法別発生量</li> <li>・事業系廃棄物の種類別・処分方法別排出係数</li> <li>[緑化・植栽による二酸化炭素吸収・固定量]</li> <li>・新たな植栽による総葉面積</li> <li>・植栽樹種別年間二酸化炭素吸収量</li> </ul>
		予測方法	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計
		予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおいて、施設等が通常の状態稼働する時期

(9) 安全性

[調査]

既存資料調査	調査目的	事業予定地周辺の交通安全の概況把握
	調査事項	交通量の状況 交通事故の発生状況
	調査方法	以下の資料の収集・整理による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成22年度 名古屋市一般交通量概況」(名古屋市, 平成24年)</li> <li>・「平成23年中 名古屋市内の交通事故」(名古屋市, 平成24年)</li> <li>・「愛知の交通事故 平成23年版」(愛知県警察本部, 平成24年)</li> <li>・名古屋市が行った金城ふ頭における交通量調査資料 (第4章 4-1 (4) ②「道路交通の状況」(p. 32) 参照)</li> </ul>
	調査場所	事業予定地周辺
現地調査	調査目的	事業予定地周辺の交通安全の現況把握
	調査事項	通学路の指定状況 歩行者及び自転車交通量 交通安全施設、交通規制の状況
	調査方法	通学路の指定状況は、聞き取りにより調査を行う。 歩行者及び自転車交通量は、数取器を用いて測定する。 交通安全施設、交通規制の状況は、現地踏査により調査を行う。
	調査場所	通学路の指定状況及び交通安全施設、交通規制の状況は、調査対象区域内で行う。 歩行者及び自転車交通量は、事業予定地周辺の3地点で行う。(図5-3-2参照)
	調査時期	1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日のうち、6～22時の16時間で行う。

[予 測]

工事中	工事関係車両の走行	予測事項	工事関係車両の走行による交通安全への影響
		予測項目	事業予定地周辺の発生集中交通量 工事関係車両出入口における歩行者及び自転車との交錯
		予測条件	工事関係車両の走行ルート及び発生集中交通量 背景交通量 安全施設の状況 事業予定地周辺の開発計画 等
		予測方法	工事計画に基づく予測
		予測場所	事業予定地周辺
		予測時期	1期区域及び2期区域において、工事関係車両台数がそれぞれ最大となる時期
		供用時	新施設関連車両の走行
予測項目	事業予定地周辺の発生集中交通量 事業予定地車両出入口における歩行者及び自転車との交錯		
予測条件	新施設関連車両の走行ルート及び発生集中交通量 背景交通量 安全施設の状況 事業予定地周辺の開発計画 等		
予測方法	事業計画に基づく予測		
予測場所	事業予定地周辺		
予測時期	1期区域及び2期区域それぞれにおける新施設の供用時		

(10) 緑地等

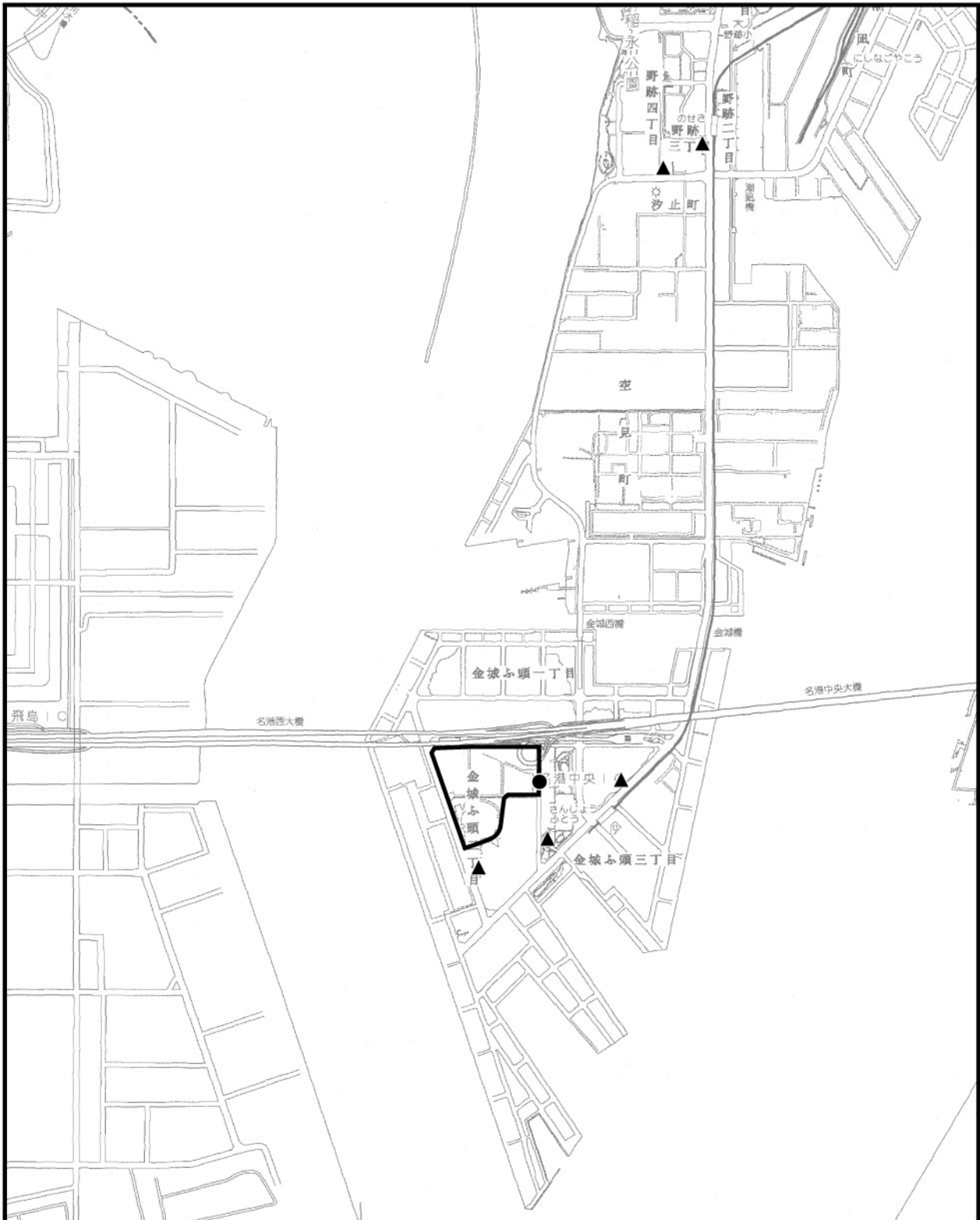
[調 査]

現地調査	調査目的	事業予定地内における緑地の現況把握
	調査事項	緑地の状況
	調査方法	現地踏査
	調査場所	事業予定地内

[予 測]

存在時	新施設の存在	予測事項	事業の実施に伴い新設する緑地等の状況
		予測項目	新設する緑地等の位置、種類、面積及び緑化率
		予測条件	緑化計画
		予測方法	事業計画に基づく予測
		予測場所	事業予定地内
		予測時期	新施設の存在時（緑化）





□ : 事業予定地

● : 環境騒音・環境振動(1地点)

▲ : 道路交通騒音・道路交通振動・  
自動車交通量・地盤卓越振動数(5地点)



0 250 500m

1/25,000

図 5-3-1 現地調査地点図 (大気質・騒音・振動)

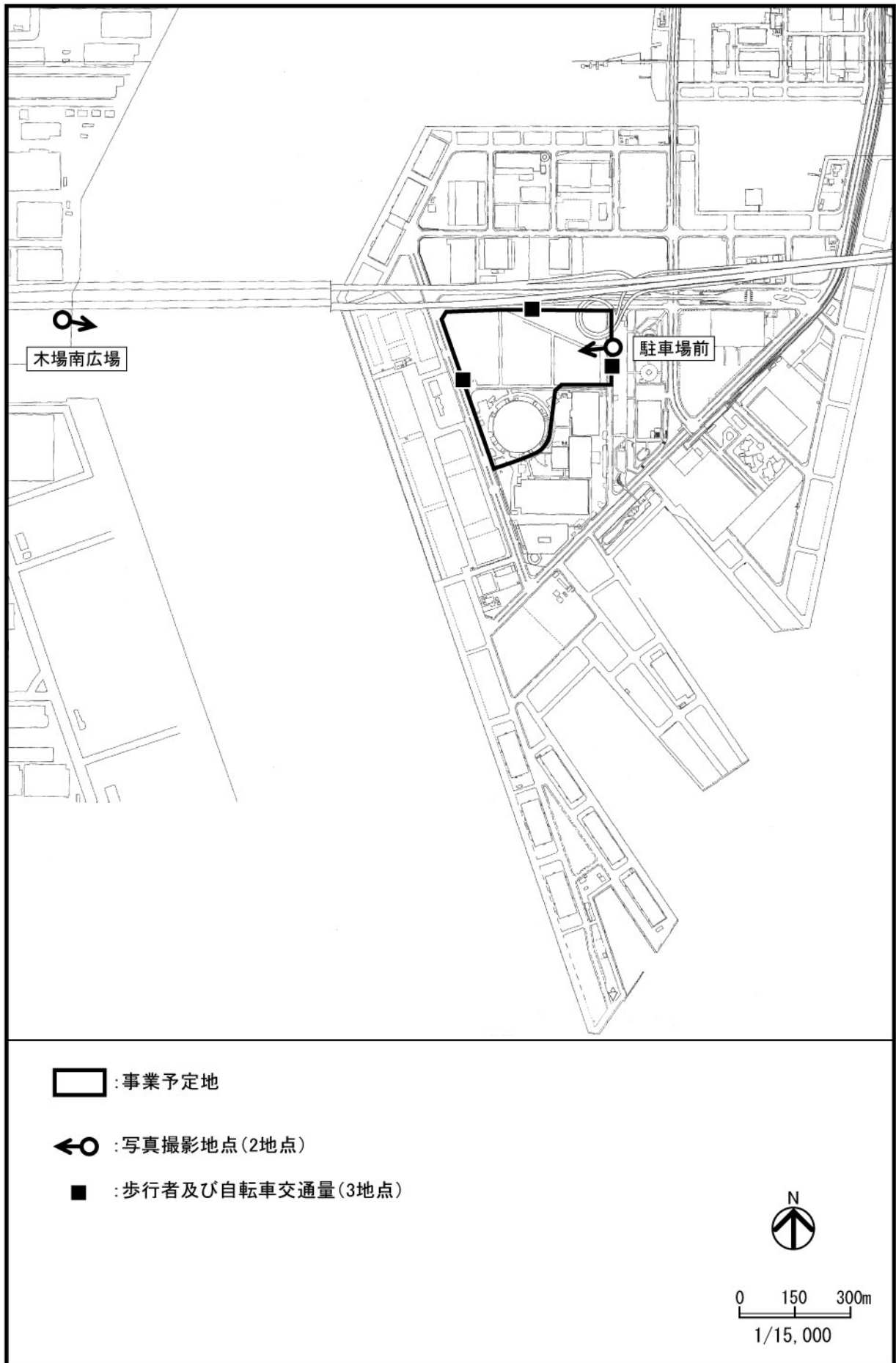


図 5-3-2 現地調査地点図 (景観・安全性)

## 第6章 評価の手法

### 6-1 環境の保全のための措置の検討

予測の結果、環境影響がないと判断される場合及び環境影響の程度が極めて小さいと判断される場合以外には、次のことを目的として環境の保全のための措置を検討する。

- (1) 事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避または低減する。
- (2) 国、愛知県または名古屋市による基準または目標の達成に努める。

### 6-2 評価の手法

調査、予測及び6-1で行った環境の保全のための措置の検討結果を踏まえ、次に示すことを明らかにして、環境保全の見地から適正な配慮を行う。

- (1) 事業の内容や地域の状況に応じ、検討した環境の保全のための措置について複数案を比較検討することや、より良い技術の導入を検討することなどにより、事業の実施による環境影響が、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減されているか否か、あるいは改善されているかについて評価する。

該当する環境要素：大気質、騒音、振動、水質・底質、土壌、景観、廃棄物等、  
温室効果ガス等、安全性、緑地等

- (2) 環境基準や目標値が示されている環境要素については、調査、予測結果との整合性について評価する。

該当する環境要素：大気質、騒音、振動、水質・底質、緑地等

- (3) (1)、(2)を踏まえ、環境要素ごとの予測、評価結果の概要を一覧表とし、他の環境要素に及ぼすおそれがある影響について検討するなど、総合的に評価する。



第7章 環境影響評価手法の概要

環境要素	調査事項	データ収集		予測事項	予測方法	本文 対照頁
		既存資料	現地調査			
大気質	二酸化窒素及び浮遊粒子状物質濃度 風向、風速、日射量及び雲量 自動車交通量（時刻別、車種別、方向別自動車交通量）	○	○	解体工事による粉じん	ビューフォート風力階級区分による風速の出現頻度に基づく予測	p. 65～67
				建設機械の稼働による大気汚染物質濃度	大気拡散モデルに基づく予測	
				工事関係車両の走行による大気汚染物質濃度		
				新施設関連車両の走行による大気汚染物質濃度		
騒音	環境騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）） 道路交通騒音（等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）） 自動車交通量（時刻別、車種別、方向別自動車交通量）	○	○	建設機械の稼働による騒音レベル	「日本音響学会 建設工事騒音予測“ASJ CN-Model 2007”」に基づく予測（機械別予測）	p. 67, 68
				工事関係車両の走行による騒音レベル	「日本音響学会 道路騒音予測法“ASJ RTN-Model 2008”」に基づく予測	
				施設の供用による騒音レベル	距離減衰式に基づく予測	
				新施設関連車両の走行による騒音レベル	「日本音響学会 道路騒音予測法“ASJ RTN-Model 2008”」に基づく予測	
振動	環境振動（時間率振動レベル（ $L_{10}$ ）） 道路交通振動 （時間率振動レベル（ $L_{10}$ ）） 地盤卓越振動数	○	○	建設機械の稼働による振動レベル	振動伝搬理論式に基づく予測	p. 69, 70
				工事関係車両の走行による振動レベル	旧建設省土木研究所の提案式等に基づく予測	
水質・底質	事業予定地周辺の公共用水域の水質の現況	○	-	工事中に発生する水質汚濁物質の排出量及び濃度	工事計画、負荷量からの推計	p. 70, 71
				新施設の供用に伴い発生する水質汚濁物質の排出量及び濃度	事業計画、負荷量からの推計もしくは数理モデル	
土壌	事業予定地内の土壌汚染の概況把握	○	-	掘削等の土工による土壌汚染の影響	工事計画、類似事例に基づく予測	p. 71
景観	地域景観の特性 主要眺望点からの景観	-	○	新施設による景観の変化	フォトモンタージュによる景観の予測	p. 72
廃棄物等	-	-	-	工事中に発生する廃棄物等の種類及び発生量	発生原単位及び工事計画から発生量並びに再資源化量を推計	p. 72
				新施設の供用に伴い発生する廃棄物等の種類及び発生量	発生原単位及び事業計画から発生量並びに再資源化量を推計	
温室効果ガス等	オゾン層破壊物質の使用状況及び量	-	○	オゾン層破壊物質の処理	工事計画、類似事例等に基づく予測	p. 73, 74
				工事に伴い発生する温室効果ガス発生量	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計	
				新施設の供用等に伴い発生する温室効果ガス発生量	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計	
安全性	交通量の状況 交通事故の発生状況 通学路の指定状況 交通安全施設、交通規制の状況	○	○	工事関係車両の走行による交通安全への影響	工事計画に基づく予測	p. 75, 76
				新施設関連車両の走行による交通安全への影響	事業計画に基づく予測	
緑地等	緑地の状況	-	○	事業の実施に伴い新設する緑地等の状況	事業計画に基づく予測	p. 76